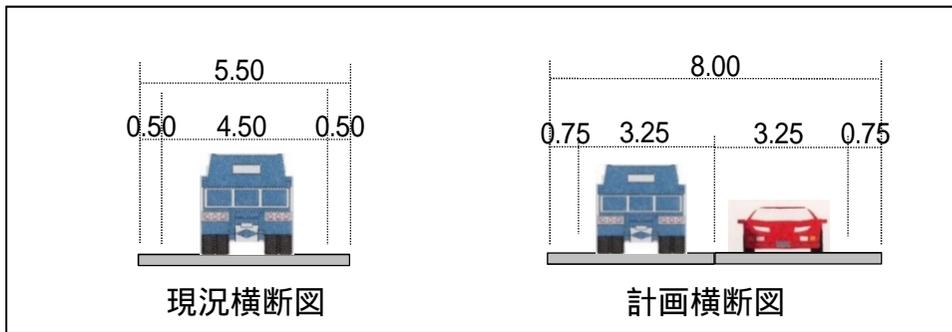
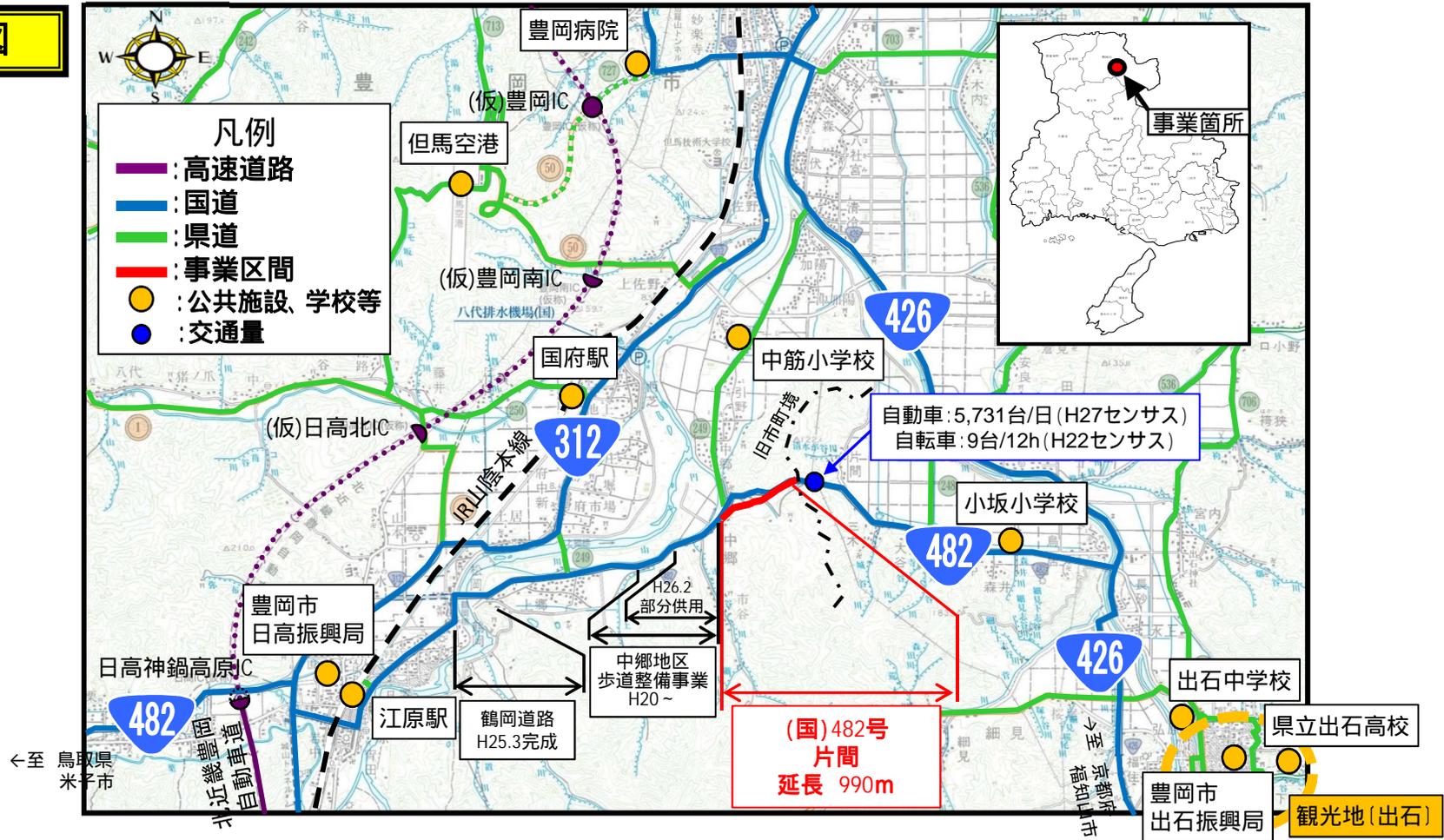


投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 上田 浩嗣 (国道・橋梁班長 江指 真祐)	内線	4362 (4378)	
事業 種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地 補償費	着手予定 年度	完了予定 年度
道路事業	道路改築事業 国道 482 号 〔片間〕	豊岡市出石町 なかのこう 片間～中郷	6.0 億円	0.9 億円	平成 30 年度	平成 33 年度
事業目的			事業内容			
<p>本路線は、京都府宮津市を起点とし、豊岡市を経て鳥取県米子市に至る幹線道路であり、沿線地域の生活・産業・観光を支える重要な路線である。</p> <p>円滑な交通の確保 集落内の幅員狭小な現道をバイパス化及び拡幅することにより、安全で円滑な交通を確保する。</p> <p>観光拠点へのアクセス強化 北近畿豊岡自動車道の日高神鍋高原 IC から出石方面へのアクセスを強化し、観光振興による地域の活性化を図る。</p> <p>広域防災機能の強化 北近畿豊岡自動車道を活用した、災害時の広域的な道路ネットワークを構築する。</p>			<p>【延長】道路改築 990m</p> <p>【構造規格】第 3 種第 2 級</p> <p>【計画幅員】2 車線 歩道無し 車道 6.5m (全幅 8.0m)</p> <p>【計画交通量】4,500 台/日 (H42 予測)</p> <p>【現況交通量】</p> <p>自動車：5,731 台/日 (H27 センサス)</p> <p>自転車：9 台/12h (H22 センサス)</p> <p>【負担割合】</p> <p>国：55% 県：45%</p>			
評価視点	評価結果の説明					
(1)必要性	<p>集落内を通過する現道は、幅員が狭小（最小車道幅員 4.5m）であることから、大型車同士の離合が困難な状況であり、かつ線形上見通しが悪い。また、過去 5 箇年（H24～H28）に 4 件の交通事故（うち人身事故 1 件）が発生している。このため、バイパス整備により、集落内の通過交通をバイパスに転換し、安全で円滑な交通を確保する。</p> <p>北近畿豊岡自動車道八鹿日高道路が平成 29 年 3 月に供用したことに伴い、端末の日高神鍋高原 IC から、豊岡市の著名な観光地の 1 つである出石に向かう交通量の増加が見込まれる。このため、出石方面への重要なアクセス道路となる本区間を整備することにより、観光を核とする地域の活性化が期待できる。</p> <p>災害時においては、北近畿豊岡自動車道を活用した広域的な復旧活動や物資輸送を実施する必要があるため、本区間を 2 車線化することで、北近畿豊岡自動車道と国道 426 号との連携を図り、広域的な緊急輸送道路ネットワークを構築する。</p>					
(2)有効性・効率性 (執行環境状況)	<p>費用便益比 B/C = 1.9</p> <p>2 車線改良及びバイパス整備により、移動時間の短縮及び交通事故の減少が図られる。</p> <p>豊岡市及び地元自治会より、早期整備について要望がなされており、事業執行環境が整っている。</p> <p>完成後の現道の管理引継について、豊岡市との協議が整っている。</p>					
(3)環境適合性	<p>通過交通をバイパスへ転換させることで、大型車等による交通騒音や排気ガスなどの沿道影響が軽減される。</p>					
(4)優先性	<p>当該事業区間西側の鶴岡道路が平成 25 年に開通し、中郷地区歩道整備事業（保全課事業）が平成 26 年に一部完了したことから、未改良の当区間の整備に地域から強い要望があり、地域活性化の視点からも早期整備が必要である。地域の防災道路強靱化プランに位置づけられており、災害に強い強靱な県土づくりを進める上でも早期整備が必要である。</p>					

位置図

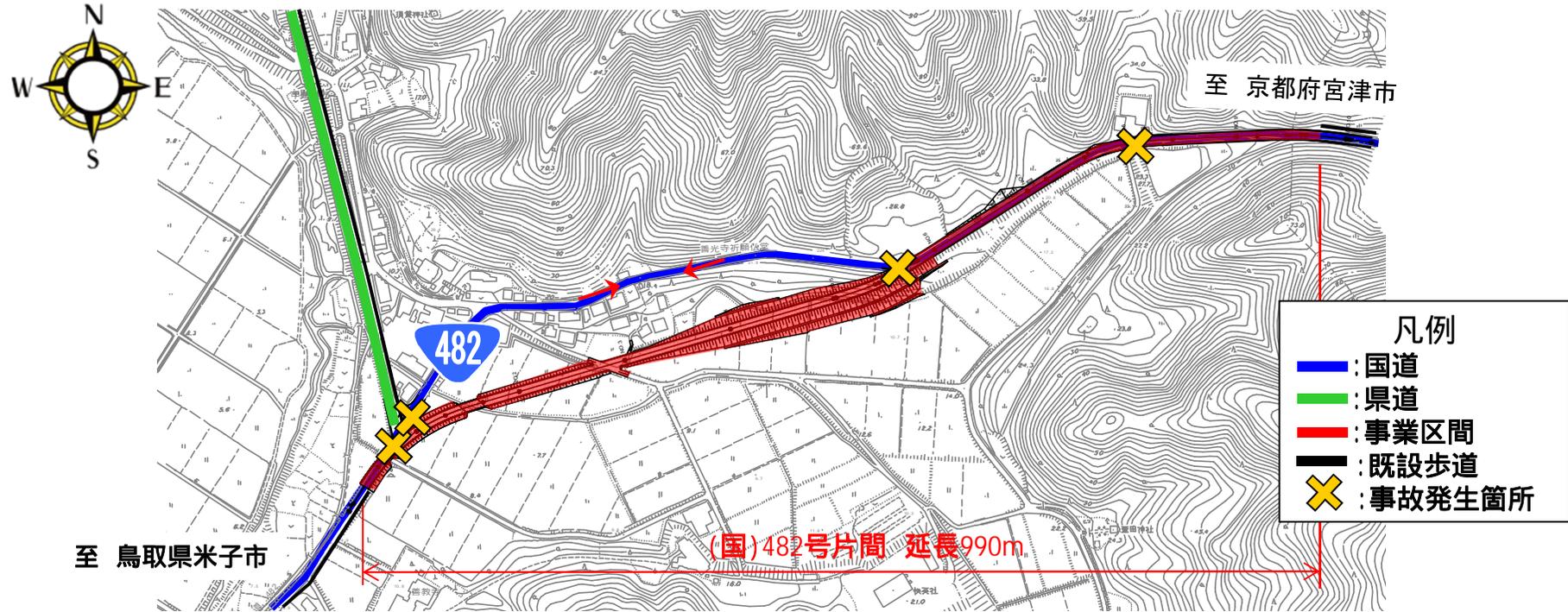


事業諸元

延長	: 990m
幅員	: 6.5m(8.0m)
総事業費	: 6.0億円
事業期間	: H30～H33

事業の必要性 | 交通の円滑化と安全性の向上

- ・幅員狭小(最小車道幅員4.5m)区間で、自動車同士の離合が困難
- ・現道区間におけるH24～H28の事故件数は4件(人身事故1件)



幅員が狭く離合が困難なため
手前で待機する車両



積雪のため有効幅員減少



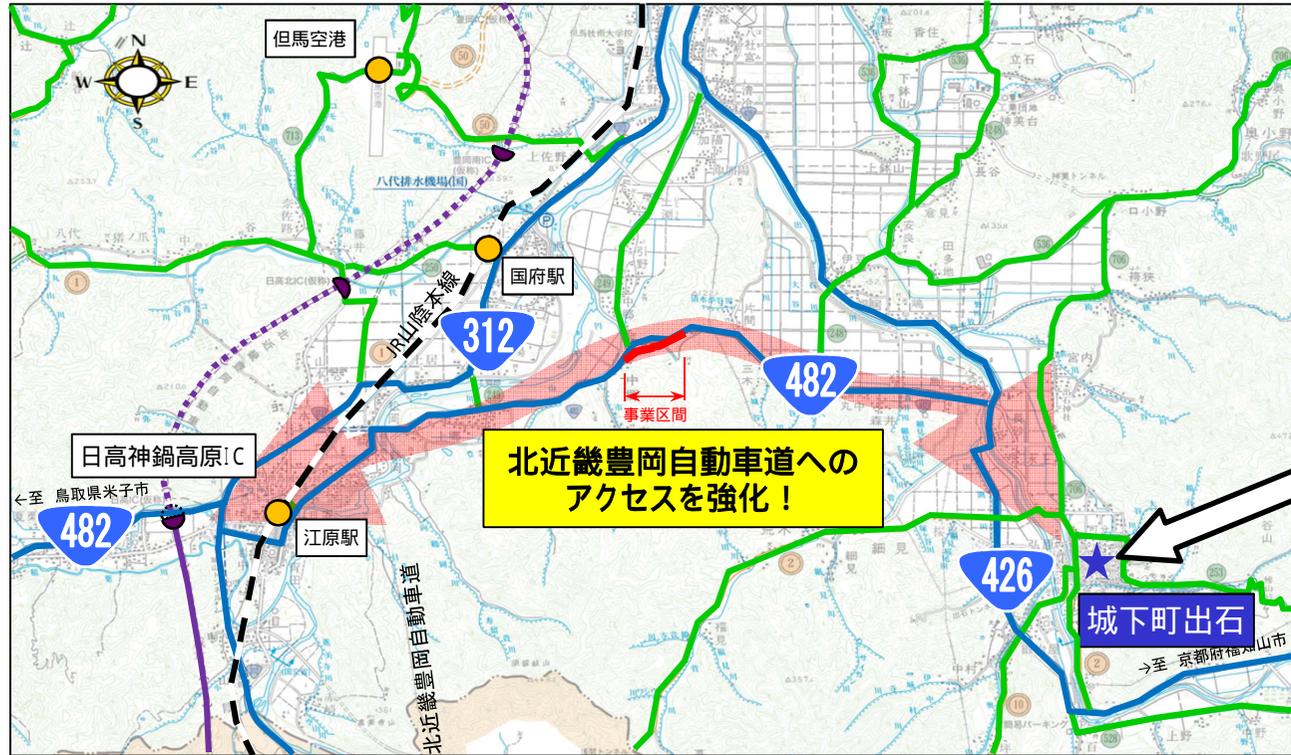
出典：豊岡市都市計画図

年	事故発生件数
平成24年	2
平成25年	0
平成26年	1
平成27年	0
平成28年	1 (1)
合計	4 (1)

()は、うち人身事故

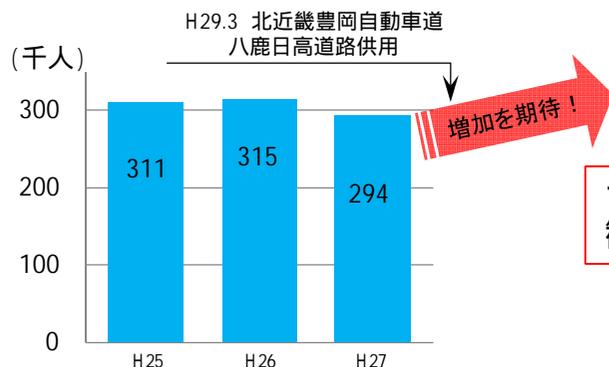
事業の必要性 | 観光拠点へのアクセス強化

・北近畿豊岡自動車道 八鹿日高道路がH29.3.25に開通。北近畿豊岡自動車道日高神鍋高原ICから城下町出石へのアクセスを強化し、さらなる観光客誘致を促進。



明治期に建設
近畿地方に現存する最古の芝居小屋

観光入込客数(出石町内周遊)の推移



アクセス強化により、出石方面への観光客数の増加を期待！

出典：兵庫県観光客動態調査

1. スケジュール

当初計画

工種	年 度			
	H30	H31	H32	H33
調査・設計				
用地補償				
道路改良				

2. 事業効果について

(1) 費用対効果

便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
道路	走行時間短縮便益 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無しの走行時間費用 - 整備有りの走行時間費用 走行時間費用： (交通量 × 走行時間) × 時間価値原単位 × 365日
	走行経費減少便益 交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無しの走行経費 - 整備有りの走行経費 走行経費： (交通量 × 距離) × 走行経費原単位 × 365日
	交通事故減少便益 交通事故が減少することによる便益	整備無しの事故損失額 - 整備有りの事故損失額 事故損失額： (交通量 × 距離 × 交差点以外の事故損失原単位 + 交通量 × 主要交差点数 × 交差点部事故損失原単位)

費用便益比(B / C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		C(費用)			B / C
		便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費	
				(百万円)	(百万円)	(百万円)	
道路	道路改築事業 国道482号 【片間】	走行時間短縮便益 953	計画交通量： 4,500台/日(H42)	529	475	54	1.9
走行経費減少便益 33							
交通事故減少便益 17							
計 1,004							

(2) 費用対効果に含まれない主な効果

豊岡市出石町へのアクセス強化による観光産業の活性化

通過交通のバイパス転換による沿道環境の改善

北近畿豊岡自動車道を活用した、災害時の広域道路ネットワークの構築

道路・街路事業の効果

対象事業：道路事業（国）482号 片間

（１）費用対効果

費用対効果	
走行時間の短縮	目的地までの時間短縮
走行経費減少	走行速度の向上や走行距離の短縮による燃料費の節約等
交通事故減少	交通事故の減少による人的損害額、物的損害額及び渋滞による損失額等

（２）費用対効果に含まれない効果

評価の視点		効果項目	該当する事業内容	
①安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 （※緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路）	○	緊急輸送道路補完ルートの整備による防災機能の強化
		救助・救援活動の支援 （※災害時の通行不能や孤立集落の解消）	○	緊急輸送道路補完ルートの整備による防災機能の強化
		減災対策への取り組み （※二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保）	—	—
	平時	救急医療体制の支援	—	—
		交通安全対策	○	バイパス整備による歩行者・自転車の安全な通行の確保
②地域の活性化	地域間交流の促進	○	豊岡市南西部（日高）と南東部（出石・但東）とのアクセス性が向上	
	中心市街地の活性化	—	—	
	地域産業の活性化	○	北近畿豊岡道から出石・但東方面へのアクセス性が向上	
	観光支援	○	北近畿豊岡道から出石・但東方面へのアクセス性が向上	
	地域プロジェクト等支援	—	—	
③円滑な交通体系の確保	公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	○	バス路線の定時性の確保	
④地域の環境改善	沿道環境の改善 景観形成	○	通過交通のバイパスへの転換による騒音、排気ガスなどの沿道影響の軽減	